

2022. 11. 15

発行: 桜本保育園

044(288)2545

# えんだより 11がつ



道路や公園に落ち葉が増えて秋の終わりを  
感じさせます。そんな中でも半袖が似合うような日があった  
りして地球温暖化を身近に感じます。

天気のいい日は保育園の中が静まり返ります。おのおの  
散歩や公園に出かけて園内あそびの子どもたちもゆっ  
たりとすごしています。歩くことが安定してきた  
0・1歳の子どもたちは園庭からさくらの校庭に  
散歩に出ます。車のこない安心な場所で学校の中の  
自然を楽しみます。ときどき中休みに重なってしまうこ  
とがあるそうです。そんなときには卒園児を中心にその  
お友達とか小さな子が好きな子とかがやさしく声をか  
けてくれたり「あぶないよ」とよりそってくれ危ないところ  
をおしえてくれるそうです。きょうだいがいったりして  
毎日おうちであっているのに大喜びする姿がかわいいの  
だそうです。園庭の門をあけ校庭の道を共有すること  
で自然と大きい子とのふれあいや小さい子とのふれあ  
いを学んでいくのでしょうか。いつか園庭の門をあけて  
小学生が園庭を共有する日がくるのかなと話を  
聞きながら想像してしまいます。

友達と手をつないで歩くことができるようになってきた  
早川さんは道路を散歩して公園へいきます。そんな  
早川さんを幼児のこどもたちが一緒に手をつないで  
公園に行く日が増えてきました。大人の声には反応しない  
のにお兄さん・お姉さんの声には笑顔で答えます。駄々を  
こねても幼児さんのねばり強い説得に大人のほうが脱帽  
するときもあるとか…。

年齢別のクラスの垣根を越えることでこどもたち同士  
の新しい関係が生まれているのだと思います。人をたすけ  
役に立つことやたすけてもらうことの安心感をまなんで  
いるのでしょうか。きょうだいの人数がすくなくなり  
地域でいろんな年齢の子ども同士で遊ぶ経験が少ない  
今の子どもたちにはそういう環境を大切につくっていく  
ことが大人の仕事になりつつあります。同年齢は  
競い合う関係のほうがつよく優劣をつけたくなるのは  
どうしてなのでしょう。もし人がそういうものなら  
異年齢のごちゃごちゃの関係でちいさくて弱い人を  
たすけあう保育園での経験こそ人としてそだつため  
にかかせないものと言えますね

(Y)

## 11月のよてい

- 2日 幼児遠足
- 11日 にじいろメニュー
- 16日 感謝節礼拝/園児健診
- 24日 わくわくひろば
- 25日 にじいろメニュー
- 30日 アドベント礼拝



ほいくえんの はたけで  
さつまいもが とれました♡

園庭で やきいも を します。

21日から どこかで やる予定。



たのしみに してくださいね。



にゅーす あるりむ ぼりた  
News・おしらせ・알림・balita

★ インフルエンザは 登園許可書が  
いらなくなりました。病院で  
「インフルエンザ」と言われたら  
最低5日間 やすんでください。

★ 12月17日(ど)  
くりすます祝会

土曜保育を利用の皆さん  
家庭保育のご協力をお願いいたします。

★ 12月29日から1月3日まで  
保育園は おやすみです。



「種を蒔き、実を結ぶ」

「また、ほかの種は良い土地に落ち、芽生え、育てて実を結び、あるものは三十倍、あるものは六十倍、あるものは百倍にもなった。」そして、「聞く耳のある者は聞きなさい」と言われた。(マルコによる福音書4章8～9節)

11月は豊かな実りの季節であり、収穫の喜びにあふれる季節でもあります。聖書において収穫は、神さまのお与えになる恵みのしるしです。「収穫感謝節」は、収穫を与えていのちを保ってくださる神さまの恵みに感謝する時として守ります。

1620年、イギリスでは自由なお祈りなどが難しい状況にありました。その中で「清教徒(ピューリタン)」が自由なお祈り・礼拝を求めてアメリカへ渡りました。求めてたどり着いた所で思うようにいかず、食べ物もなくなり困っていたところ、「先住民」の人々が種を与え、耕作の方法を教えてくれました。それが実り、生きていく希望になりました。秋の収穫物を前に、人々を招き、共に神さまの恵みに感謝し礼拝を捧げました。これが「収穫感謝節」のはじまりだと言われています。

今月の聖句は、「種を蒔く人」のたとえ話です。種蒔きというと、しゃがんで一粒、一粒植えていく光景を思い浮かべますが、このたとえ話では、ミレーが描いた「種蒔く人」のように、広い畑で種をたくさん手にして蒔く光景です。

イエスさまのお話しを聞きに集まった人の多くは、病気などで苦しみ、社会で小さくされた人々であったと言われています。イエスさまはそうした苦しんでいる人に、8節に「ほかの種は良い土地に落ち、芽生え、育てて実を結び、あるものは三十倍、あるものは六十倍、あるものは百倍にもなった」とあるように、いろいろな苦しい境遇に直面しているけれども、あなたの人生で豊かな「実を結ぶ」と、励ましてくださる言葉であると思います。励まされます。

収穫の秋を迎え、一年を振り返りながら、与えられている恵みに感謝したいと思います。そして、これからも感謝の心で、互いに分かち合っ、励まし合いながら過ごしていきたいと願うものであります。



(チャブレン 鄭富京)

10月のフォト

0・1 Family Joyful Day



ひとみざ にんぎょうげき



ねんちょうじこうりゅう  
せいびほいくえんと